

と、「ボキン」と音がしてたやすくおれてしまいました。このようにどんな大きなきでもたおされるのだというのをしりました。このは今は今、日本全国にひろがつています。「もしこのくりたまばちで、くりやくぬぎのきがなくなつたら、どうなることだろうか」などと思いました。

クリタマバチについて

菟道小学校

六ノ一 梶理己也(科学班)

クリタマバチは、昭和十六年ごろにはじめて、岡山縣で発見され昭和十九年ごろには、兵庫縣にもたくさんでたそうである。日本では、石井博士により「クリタマバチ」とよばれるようになった。前ごろ学校でも飼っていたが、大きさは、ふつうで二、五ミリメートルぐらいのちいさな、昆虫で色は黒色ではねはすきとおつている。昆虫の特長として、頭、むね、はらにわかれてあしは、六本であるクリタマバチの眼は、単眼も複眼もあり後あしは二本がもつとも長い、はねは、前はね二枚後はね二枚です。

次にたまごは、乳色で七月ごろに成虫によつて生れる。一びきの成虫は、百から二百までのたまごをもつてゐる。たまごはまもなく幼虫になる。幼虫からさなぎになつてそれから成虫になるのである。この虫は、もちろんくりにとつて大敵であつて、くりの芽の出る所につき、くりの成長をじやまし

くりたま蜂の話

昭和十六年頃岡山縣下で発見されたと言われるくりたま蜂は、初め害虫とも知らず「養栗」と喜ん

したがつてくりのきが、そだたなく実もできなくなる。くりのきはかたいので鐵道のまくらぎや、その他いろいろのつかい道があり、実も又食用としてみなによろこばれる。このような、大切な果が、このクリタマバチによつて、全めつさせられてはたまらない今では「くぬぎ」や「ほうそう」にもついているそうだが、この虫をたいにする事は、現在大切な事であるこの昆虫をころすにはDHCやDDT、除虫菊、クロルジン、マイルイ等の薬をつかつてゐるが、まだ充分ききめがあらわれないやうである。発生するクリタマバチをわれわれの考えかたで早くせんめつしたいものである。

クリタマバチ

菟道小学校

六ノ二 阪部 勝(科学班)

五月三十日

天気晴 温度二十二度

今日、学校歸りに先生の言つておられた、クリタマバチの巢のあつたくりのきがあつたのでつたかえつた。お母さんに見せると、「木の実にちがうか。」と言われ

たので説明してあげると、大変おどろいておられた。それをかれないやうに、花びんにさした。そして巢の一つを取つて、わつて見ると、小さな白いたまごがはいつていた。巢の中のたまごをおさえるとすぐつぶれた。

六月一日 天気、雨 温度二十一度

今日、朝から雨が梅雨のやうに

ふつていた。学校から帰ると、すぐにクリタマバチの所へ飛んでつた。あまり変化はないが色がすこし変つたやうだ。

六月十四日 天気晴 温度二十三度

今日は、朝から、太陽がまぶしいくらいがやいていた。巢を見るとき、枝がかれてきてゐるので、くり林へとりに行つた。行つて取つてきた巢を見ると、大変大きくなつて、十円銅貨位のすもあつた

六月十五日 天気晴 温度二十二度

学校へ行つて、そうじをしに行くと、梅田君がクリタマバチのハチになつたのをもつてきた。ぼくの思つてゐたハチより大変小さい小さいハチもゐるものだ。ぼくの巢の虫は、いつかえるだろう。

六月十七日 天気晴 温度二十一度

今日日は、水曜なので、クラブ活動があつた。ぼく達は、科学班なので、今日は、クリタマバチについてのお話があつた。話の後で、クリタマバチをけんび鏡のぞいた。ばつと見たところは、あつたやうだつた。

家に歸つて、ぼくのを切ると、やはり、はちにかえつていて、とびかけていた。形は、ちようど、ぼくたちがめまいといつてゐる虫と同じやうだつた。このくりたまばちは、このままほつておくと、くりの木をくいにからし、くぬぎ、かし、ほうそうと言ふ順序に日本中の木をからしてしまふのではなからうか? それをふせぐには、DDTかB.H.C

等の薬品を、飛行機でまくか、枝を全部切はらうかのどちらかである。もしも、飛行機でまくとする、六月十五日ごろから、七月まで位いの期間にまけば、こう果があるのじやないだろうか。その二つの事を、今から行えば、日本全国の木は、かれないで、すむと思ふ、ぼくたちは、それに、出来るだけ協力して、全国の木を守りたい。

おじさんと栗玉蜂

菟道小学校

六ノ五 萩原謙太郎(理科班)

僕は今度始めて栗玉蜂のお話を先生からきかせてもらつたり、又見せてもらつたりして其害が非常にひどい事に驚いた。さつそく僕も前の山へ行つて栗の木を調べて見た。お話の通り栗の葉のつけねや、枝のつけねにまるでこぶのやうにかたまつてついでゐるのが何だか気が悪いくらいだ。これが栗の木をからしてしまふのかとちよつと思われなくらいである。さつそく持つてきた入れ物に取つて見たが中々たくさんついでゐるので全部取るのには骨が折れる。僕はむちゆうになつて取つてゐると誰かの声がするのに気がついてふりかえつて見ると、この山の持ち主の年寄りのおぢさんだつた。栗の木を何をやるのだ。何を取つてゐるのだ。僕は顔が赤くなつてしまつて立つてゐると、そばまでやつて来てなぜこれを取るのだ。今これから花が咲くのぞぞ、とい

栗タマバチ取り

笠取小学校

六年 前川 勳

ぼくは前に栗タマバチの話を生にいつてもらつたからもうなにもかも知つてゐる。今日は栗タマバチを取りに山へ行つた。一番最初ぼくは、「どこへん

鹿の瓜、今北等の品種へ栽植を計画することです。

都 みんなて聞こう

十分

いか、こゝまで来て仕事をしたと云えないし又何の意義もない時間を労力だけをうしないに来た様なものだ。だけれどそうでない事になつたと思うだけで喜んでならぬ。皆んなに知らせ取り始めた初めは虫の事なので持つとすぐつぶれて中から黄色い汁が出てくるのではないかと好奇心をいだきながら、さわつて見るとあにはからんや堅くてつぶれる所か、つぶすには爪でさくかしくはなくて普通ではつぶれない、持つて来たセメントの袋に半分ほど取つた。まだ上の枝の方にはたくさんついている。僕は少々背の高い方なので飛び上つて枝をつかんだまでは良かったのであるがそれから失敗だ。つかんだ枝が少し太くても枯れていたので。枯木には誰でもかなわないうらうドスン!! 枝をつかんだまゝ草の上にしりもちをついてしまった。今はこのはちによつて害をされてはと云うわけではないがやがてはこの太い幹までを今の状態に持つて行く様になるのかと思ふと恐ろしい。枝からは、たやすくと葉ごと取れる。しようがないが葉はもう何の役目もしないそうである。葉緑体も活動しなくなる。葉にはないだろか。それならば我々の取り安い様にしてくれば良いのだ。持つて来た入れ物には全部入れつくしてしまつた。そこへ志津川の公民館の方が茶摘かごを持つて来て下さつたが、それも見てる間に一杯と化してしまつた。帰りかけた所へ今まで長持ちして雨が降り出して来た。大

きな荷物を肩にかけながら歩いては木のしげみに入つたり小屋の軒に雨やどりをしたりして、ようよりのこと宇治にたどりついた。学校からT先生が自転車で傘を三本ばかりついで持つて来て下さつた。それも片手に大きな荷物を肩にこゝまで持つて来たと言ふ自分としての役目を一躍果した事になる。家に歸つてさつそく服を着かえた。ポケットに何か大きな物が入つて居る。出して見ると古ぼけた新聞につつまれたくりたまはちのすがしわくちやになつて入つて居るではないか、最初に見つけた時、歸つてしらべよと思つて入れておいたのである。身を清水でふいてから僕の本立にある理科図鑑を見たがのつてない。それで動物と云う清水書院の本を開いてみたがそれらしきものはみあたらない。そこで放課後図書室に入つて、動物図鑑、理科辞典、大百科辞典を見てもなかつた。柱時計が六時をうつた。今日の復習もしなければならぬので歸つた、それから二、三日たつて職業担当の先生からくりたまはちについて作文なり感想文なりを書いてくれと云われた。そして宇治市経済茶業課、宇治市森林組合が出して居る。くりたまはちと云う本を貸して下さつた。

僕達知つた事、すなわち取りに行つた時はもうさなぎになつて卵の事はわからない。本によるとスプーン状をしていて大層小さく一匹の成虫は一〇〇個ないし二〇〇個の卵をもつて居ると記してある。取つて来た枝を一輪さしにして机の上に置いて観察した。十日間ほどして下の方が黄色と茶色のまじつた様な色が、表われて来た。一本だけである。三本さししておいた日がたつにつれて一本又一本と枯れて行き僕の家の附近にはないのでこまつてしまつた。最後の一本も二十九日目でかれてしまつた。すいぶん水を変えてやつたのにそのかきもむなくしてはほつておけない。いつかはくりたまはちの名がこの世から消え去つて二度と表われて来る事のない様に我々は力の限り頑張らうと天にむかつて呼んだ。新の平和それこそ害虫がこの世より消える事だ。

クリタマ蜂
観察日記

宇治中学校
三年D 中島 起三

二十一日 午後八時
今日六時に取つてから二時間たつがなんの変わりもない。
巢の中ではまだ卵からかえつていないような氣さえる。

二十三日 午後九時
昨日とほとんど変わらない。表面に於ける色がすこし變つたよ
うな氣がするが、ほかはなんの変わりもない。

二十四日 午後四時
いくらまつても巢の中から出な

いので不審に思いナイフで半分に切つた。すると中にはもう二、三ミリ位の長さで黒色で、形ははつきりわからない。少し鉛筆の先でさわると足だらうと思ふ。しきりに動かして居る。なんだかうれし
そうで苦しうな氣がする。ふとこの虫は何を食べて居るだらうか? となにげなしに思つた。卵から今まで相当の日がある。それまではきつとこのすの水分を吸つて居たのだらうと思つた。コンパスの先でその実から出してやつた。動いた。一秒間に三ミリの速さで目的もなくあるいて居る。長さ三ミリの短つた。さきほどのは実の中であつたため体をまげていたので少く見えたが、たしかに大きい。頭の先に角の様に毛が出ている。うれしいのか目的なしに一生懸命あるいて居る。全くありの様に、手の上を歩かせると全つかゆくもない。全く乗つていても乗つていなくても同じだ。しかし皮のうすい所へくると感じられるさかさまにしてやると起き上らぬ。足を動かして角を動かす、体全体を動かしてもだめだ。もつとがんばれ、それもうすぐだ。ぼくまでこんな言葉が出て来た。あま
りかわいそうなので起してやつたすると又目的もなしに歩いて居る。体は頭が小さくてと云うより半丸で、(図)のようになつて居る。そして首があり、又ふくれている。これはどうも胸らしい。そして一番下に今までより又大きくふくれ
ている。羽は胸の所より出て、しりの所まで位、とても薄くてはつ

きりわからない。
足もひつきりなしに動かしているのかぞえにくい、今見た所では六本のような感がある。色は全く黒一色である。点々の所が羽である。よく見るとぞいたいこのようだつた。

二十五日 午後八時
マツ箱に水分の含んだ実を入れておいたのが今もうすつかり乾き切つた。このむしが食べるのもあるだらうと思ふ。大きさは全
々變らない。虫を鉛筆の先でシリをさわると前よりも早く動いた。しかし静かにして居ると何だか落ちつきづいて来たように目的なしに余り歩かないようになった。

二十六日 午後九時
落ちつきが加わつただけは昨日と同様。

二十七日 午後四時
これだけの變化の乏しい動物は何か特殊な道具を持たねば毎日の變化がみられない。
おちつきがますます加わり、なつて来たとも云えるだらう。

二十八日 午前九時
朝、ふとみるのを忘れ、今みるともういつの間にか死んで居た。体をまるくして足、角、体、全々動かさない。みている何だかつかれたような感があった。

くりたまはちの被害樹は二月中旬に伐採して、太い所は椎茸の櫛木に又小枝は燃料にして下さい

経済茶業課
宇治市森林組合